

奥利根・奈良沢川三ツ石沢～三番手沢下降

木下

【日時】 2011年10月8日(土)～10月10日(月)

【メンバー】 L木下 棚橋

今年の沢シーズンは豪雨や天候不順で思
うような山行ができない、ラストチャンス
となるこの3連休、前から行ってみたかっ
た「三ツ石沢」へ。願いがかなって好天の
三日間、花崗岩に磨かれた奥利根の美溪を
巡ってることが出来た。

10/8 晴

越後沢へ入る藤岡パーティに渡船の順番
を先にしてもらい、奥利根湖を渡る。顔な
じみの高柳さんに今年の状況などを伺い

ながら、バックウォーターへ。高柳さんを見送ると二人だけぽつんと残されなんだか寂
しいが、天気も良くこれからのわくわく感のほう勝ってくる。

砂漠のような荒涼としたバックウォーターを歩いてくと、なぎ倒された樹林と立ち枯れ
た木々、今年の豪雨のすさまじさを目にした。荒れた河原を右に左に徒渡していくと、

全面的に崩壊した三右衛門沢に出会う、土砂の押し
出しはこの沢が原因であった。

ここを過ぎると豊かな森に覆われた従来の奈良沢
川の流れとなり、しばらくして三ツ石沢の出合着。
碧色の淵、白い花崗岩のナメ、滝が次々と現われ美
しい沢が続く、どれもそう難しいことはなく楽しく
進める。時折高巻きや懸垂の選択を強いられるが、
やはり難しいファインディングもなく三ツ石沢の
溪相に酔っていきそうだ。三番目の開けたゴルジュ、
前方には三番手山の柔らかな稜線が伺いながらも
最狭部は1mほど、これをへつり越していく。

「思ったより順調だねえ」などと今日の幕場に思い
を馳せていると、大きなCSに深い淵、さすがにこ
れは通過できない。



右岸のルンゼを登るが行き詰まり戻る。右岸の露岩からブッシュに入りトラバースするがなかなか傾斜がきつい、遠望するとゴルジュの先に20mクラスの滝が見える。一度降り



りても再び巻きになりそうなので、まとめて巻くことにする。ルンゼを2本渡る大高巻きになったがこのとき棚橋さんがバイルを紛失。つけていた細引きが老朽化していたのであろう、千切れてしまっていた。藪の中、探すことは難しくあきらめる。

腕がパンプしはじめる頃、懸垂もなく沢床に降りることができた。日も傾きだし「早く幕場を探そうぜ」沢が大きく右折する屈曲部にはトポにある幕場適地がない、確かに沢は穏やかになったが増水に耐えられるような台地がないのだ。「今回雨は降らないよ」とゼロメーター地帯の砂地を均してテント張った。



10/9 晴

朝食を食べて体が温まったところで濡れた服を着る、いやな瞬間だが身につけてしまえばこっちのもの・・・

沢は右折すると狭まり、CS5m滝。右岸からへつるが、下り気味のトラバースが微妙で朝一番から「ドボン」はいやなので空身でロープを引き、荷揚げ



する。朝一番の渋いところであった。稜線に日が当たり紅葉に彩られた大滝の落口が遠望できる。大滝は3段40m、左岸より支流が合わさっている。登攀するには左水流際より左壁、上部は傾斜が緩むので初めの1P、ハーケンを2-3ポイントかな、と観察したがバイル一本なので時間と勘案して巻きにする。少し戻った右岸のルンゼから・・・階段状で快適、上部は露岩からブッシュに入る。大滝の上にも10mクラスの滝があり合わせて巻く、ルンゼ1本を越して灌木を利用し、懸垂なしで沢に戻った。ここからは両岸草付の開けた溪相になるが、5m前後の滝が現われ「登れないと高巻きが大変かなあ」と近づいてみると登れてしまう。

楽しく高度を上げていくと最後は笹藪に突入、20分くらいの藪漕ぎで二番手山の肩付近に出た。番手尾根からの展望は巻機山～三ツ石山～小沢山、幽ノ沢山の展望が素晴らしく、奥利根湖が眼下に広がる。稜線の爽やかな風をあとに三番手沢へ。草付斜面を下り、尾根状の灌木を頼りに下降するが次第に沢の切れ込みが深くなり、花崗岩の美しいナメ滝が連続するようになる。40m



懸垂を2回で三番手沢本流に出合う、豪快な滝の連続、息をつかせぬ展開になる。



本流からは数年前に下降していたので手順はわかっているつもりであったが、続くゴルジュも豪快、ルンゼを1本渡って巻き下る、早めに戻ろうとすると連瀑の最中に出てしまい再び登り返す羽目になる・・・このあたりの巻きはすべて右岸から、続く連瀑もナメ状の大滝、今日もまた藪の中で腕がパンプし始める頃、幕場の探す目配せを・・・3つ目のゴルジュを巻き降りると猫の額ほどの砂地が・・・次は懸垂が予想される滝が控えている、「棚さあん～」今日はここまでにしようかと、整地してテントを立てた。つまみを作ってお酒をいただくと一日の疲れが溶けていく、朧月の夜であった。

10/10 曇のち晴

出発してすぐに連瀑、右岸ブッシュに支点を取り懸垂、釜を回り込み落口を渡り、次は左岸のスラブをそのまま下る、2段10mの滝であった。ここからはしばし荒れた河原を行くが、再びゴルジュ・連瀑が現われる。しかし今までよりは切れ込みも浅くやはり右岸を巻き下る。続いて2段10m滝、今度は左岸から小さく巻くときれいな小滝や釜が現われ楽しく歩けるようになる。しばらくして小沢の本流に合流した。



大きな流れになるが難しいところはなく、深みに悠然と泳ぐ「鯖のような」岩魚に驚き、紅葉の森に眼を細めた。広い河原で大休止、濡れたテントを乾かし、遠くなった番手尾根～二番手山を振り返る。爽やかな風、色付いたブナの木漏れ日、柔らかな瀬音を楽しむゆっくりしたひと時を過ごせた。

水害の土砂が目立つようになると奈良沢川本流に出合う。まだ約束の時間に早すぎる、付近の尾根や段丘を探ってみるが、キノコは全く見当たらなかった。「仕方ないから、バックウォーターへ行って昼寝でもするか」と湖岸へ向かうとボートが見える。昼寝をして待っていたのは高柳さんのほうであった、感謝。湖上から巻機山～小沢岳の稜線を見送りつつ、3日間の沢を終えた。

【行程】

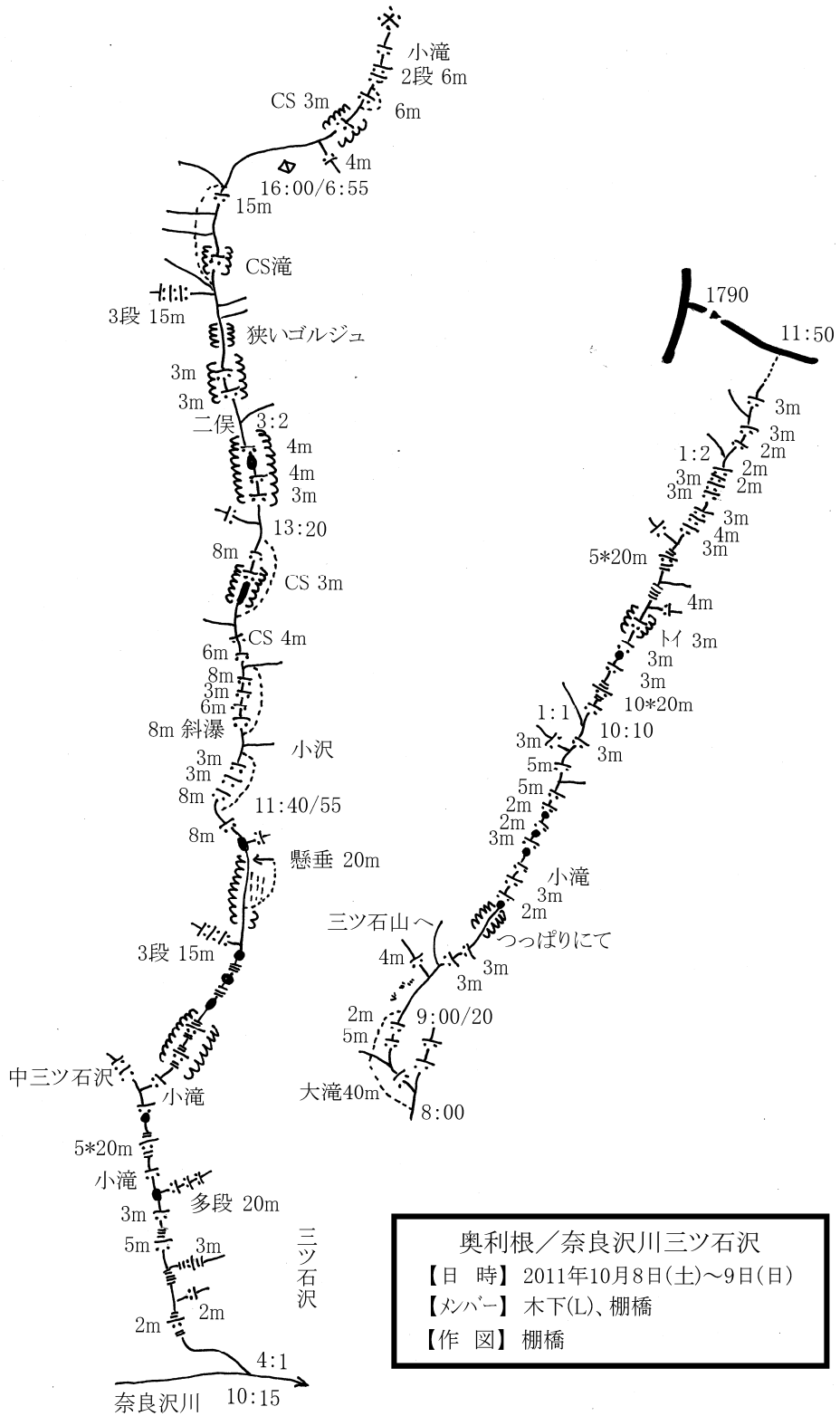
10/8 奈良沢川バックウォーター(8:40/50)～三つ石沢出合(10:15)～二俣(13:45)～屈曲部先C1(16:00)

10/9 C1(6:55)～大滝(8:00)～稜線(11:50)～Co1150m付近C2(16:00)

10/10 C2(7:00)～奈良沢川出合(9:00/30)～奈良沢川バックウォーター(10:00)

【地図】 奥利根湖





奥利根／奈良沢川三ツ石沢
 【日時】 2011年10月8日(土)～9日(日)
 【メンバー】 木下(L)、棚橋
 【作図】 棚橋